平成 24 年度　全学初年次教育「自立と体験１」

実施報告書

全学初年次教育に関する委員会

目　次

はじめに
１．データから見た結果報告 ･････････････････････････････････ P. 2
　Ａ．設問(1)～(8)の第１回目と第 15 回目の比較
　Ｂ．設問(9)～(13)の平成 23 年度との比較
　Ｃ．学生の出席率の推移
　　１）出席率(全体)
　　２）曜日別出席
　　３）出席回数別
　　４）学科別欠席者数
　Ｄ．設問「ためになった」と思う回の授業の前年度との比較検討

２．授業運営（準備から終了後まで）･････････････････････････ P. 8
２－１．授業がスタートするまで
　Ａ．シラバスの修正、各回の授業内容
　Ｂ．教案・ポートフォリオの改訂
　　１）教案の改訂
　　２）ポートフォリオの改訂
　Ｃ．担当教員の事前研修

２－２．授業スタート後 ･････････････････････････････････････ P. 15
　Ａ．連続欠席学生への学生指導
　Ｂ．ランチミーティング
　Ｃ．ニュースレター
　Ｄ．担当教員へのフォローアップ
　Ｅ．明星教育センターミーティングでの打ち合わせ
　Ｆ．関連教材の作成

２－３．授業終了後 ･･･ P. 20
　Ａ．「補習」授業の実施

３．学生支援の体制 ･･･ P. 21
　Ａ．「気になる学生」対応

４．代講教員対応 ･･･ P. 21
　Ａ．休講なしの授業

５．ＴＡ／ＳＡの活用 ･･･････････････････････････････････････ P. 24
６．授業資料の準備 ･･･ P. 26
７．来年度に向けて（まとめ）･･･････････････････････････････ P. 28
参考資料

はじめに

授業導入３年目を迎えた「自立と体験１」は、平成 24 年度も教育目標である「明星大学に学ぶ学生としての自分を理解し、各自の理想や目的を明確にしていくこと」、また到達目標である「多様な学部・学科に所属するクラスメートとの交流を通して、様々な角度から自分自身をみつめる」、「授業に休まず出席し、異なる考え方に多く触れる」がそれぞれ達成された。

１年生自身が熱心に受講したことはもちろん、担当教員、ＴＡ／ＳＡ、関係職員の協力のもとに、多くの点で平成 23 年度よりさらに良好な形で授業を終えることができた。平成 23 年度からの課題の改善とともに、平成 24 年度は「１年生が作成した『明星大学紹介模造紙』の学内展示」など、新しい試みも取り入れることができた。

以下に、平成 24 年度「自立と体験１」総括報告として、まとめたい。

１．データから見た結果報告

Ａ．設問(1)～(8)の第１回目と第 15 回目の比較

・第１回目と第 15 回目で同じ質問項目を設定し、授業による変化を学生自身に自己評価してもらった。＜図表１＞参照
・全体の傾向は、平成 22 年度、平成 23 年度の結果とほぼ同様の数字の変化であった。
・第 15 回目と第１回目の変化を見るために、肯定的回答(「とてもそう思う」「そう思う」と答えた学生)の小計(%)の変化で比べてみた。

	設問内容	肯定的回答の変化（第 15 回%－第１回%）			肯定的回答の比率（第 15 回実施分）		
		24 年度	23 年度	22 年度	24 年度	23 年度	22 年度
1	卒業後にしたいこと(進路)を考えていますか	＋3.9%	＋7.2%	+5.5%	77.0%	78.6%	77.4%
2	学生時代にするべきことを考えていますか	+7.2%	＋5.7%	+4.1%	89.6%%	86.7%	83.9%
3	明星大学の歴史や教育の特色を知っていますか	+25.3%	＋27.5%	+22.9%	46.0%	47.1%	46.9%
4	大学の図書館の利用方法を知っていますか	+52.5%	＋41.6%	+62.9%	88.0%	91.2%	90.2%
5	自分の意見を筋道立てて話すことができますか	+31.4%	＋30.1%	+28.3%	65.3%	63.8%	62.0%
6	敬意、関心を持って他者の話を聴くことができますか	+3.1%	＋1.8%	+1.9%	93.2%	92.0%	90.2%
7	自分の意見を文章でわかりやすく表現できますか	+27.2%	＋27.9%	+25.8%	54.5%	54.9%	58.0%
8	規律(「無断欠席や遅刻をしないなど」)を守って学習活動ができますか	-15.4%	－15.7%	－9.8%	74.9%	74.3%	80.0%

＜図表１＞

・学生による授業の評価は、3 年連続して大きな変化がなく、同様の傾向だった。「自立と体験１」という授業に対して、「卒業後を見ながら学生時代にするべきことを考える」「大学について知り大学に慣れる」「コミュニケーションスキルを身に付ける」等の効果があるという評価が定着したと考えられる。
・「学生時代にするべきことを考えていますか」の数値は、第 15 回授業と第 1 回授業の変化も第 15 回の肯定的回答も、一貫して増加している。このことから、第三節のねらいとする「授業を通して大学生活の計画を立てる」が達成されてきていることが分かる。

Ｂ．設問(9)～(13)の平成 23 年度との比較

	設問内容	肯定的回答	平成 23 年度
9	「少人数クラス」は役に立ちましたか	91.8%	90.0%
10	「他学部・他学科の学生との交流」は役に立ちましたか	93.3%	92.7%
11	「グループでの学習活動」は役に立ちましたか	91.4%	90.6%
12	「ポートフォリオ」は役に立ちましたか	79.3%	75.5%
13	課題提出や先生からのコメントにより学びが深まりましたか	85.1%	82.5%

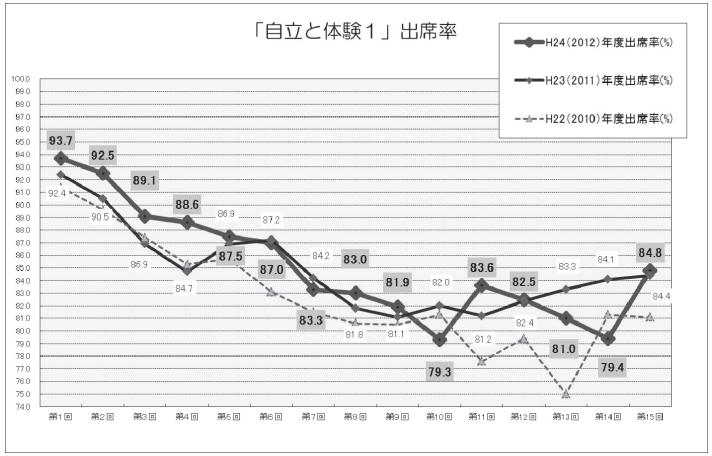
＜図表２＞

・「自立と体験１」の特長的な点について、「役に立ったか」を尋ねたアンケート結果から、肯定的回答（「とてもそう思う」「そう思う」と答えた学生）の比率を表にしてみた。＜図表２＞を見ると、すべての項目で平成 23 年度より増加していることが分かる。
・特に、「少人数クラス」「他学部・他学科の学生との交流」「グループでの学習活動」は、90%以上の数値を維持しており、受講する学生にとって「自立と体験１」の授業形態が「役に立つものである」ということが言える。
・「ポートフォリオ」が役に立ったかどうかについては、平成 23 年度は数値が減少しており（80.0%⇒75.5%）、平成 24 年度はポートフォリオの記載内容の充実、2 回提出の義務付け等の対策を取った。平成 22 年度の 80.0%には及ばなかったものの回復の傾向が見られたことは、そういった対策の効果と考えられる。今後さらに工夫を重ねたい。
・課題提出に対する先生からのコメントも、学生にとって役立つものだったようだ。平成 24 年度は提出時期の見直しを行ったものの、コメントを記入する担当教員のご苦労は少なくなかった。そういったご協力のもとに、学生が学びを深めることができたと感じているのだと考えられる。

Ｃ．学生の出席率の推移

１）出席率（全体）について

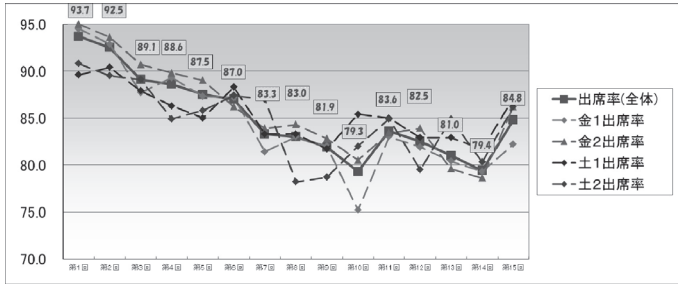
・全体としての平均出席率は、85.1%であった(<図表３>参照)。因みに、過去 3 年間と比べてみると、2010 年 82.7%、2011 年 84.9%であり、微増といえる。今年は、第 1 週の 93.7%を最高に、第 10 週の 79.3%と、第 14 週の 79.4%とに落ち込みがみられ、最終週 84.8%に押し上げた 2 段階のボトムを描く曲線になった。
＊出席率の低い回数は、7 週から 10 週と、13 週と 14 週の 2 段階である。前者はローテーション授業の期間である。合同ということで、「一人ぐらいは」と考えて欠席したのであろうかと考えられる。
＊13 週と 14 週については、欠席回数を気に掛ける学生の調整と考えられる一面があるようだ。明星教育センター教員による 2 回連続欠席学生への連絡に対して、少数であったが「君の出席は充分だと先生に言われて休んだ」という応答が見られた。



＜図表３＞ 「自立と体験１」平成 22 年度、平成 23 年度　平成 24 年度
出席率　対照グラフ

２）曜日別出席（<図表４><図表５>参照）

平成 24 年度の曜日時限別による出席率、金曜日・土曜日の各 2 コマ計 4 コマでの差異は 1.4%の幅内にあり、曜日時限での大差はなかった。金曜日と土曜日の対前年比較では、昨年が 4 ポイントの差で金曜日が高かったことからすれば、平均化しているといえる。
＊曜日時限では、第 10 週金曜日 1 限の 75.2%が最も低かった。この要因としては、降雨による気象条件が影響しての電車遅延が考えられる。
＊この第 10 週目に関しては、ＴＡ／ＳＡからも、遅刻者が多く、クラスによっては始まっても数人しかいなかったとの報告がある。
＊教員も、学生の少なさに授業開始に不安を抱いていたとの感想もあった。



＜図表４＞　「自立と体験１」平成 24 年度　曜日別出席率　対照グラフ

※参考 曜日ごと出席率		受講生	欠席人数	出席率
第1回 4/13,14	金曜1限	757	42	94.5%
	金曜2限	785	39	95.0%
	土曜1限	240	25	89.6%
	土曜2限	239	22	90.8%
		2021	128	93.7%
第4回 5/11,12	金曜1限	757	81	89.3%
	金曜2限	785	80	89.8%
	土曜1限	240	33	86.3%
	土曜2限	239	36	84.9%
		2021	230	88.6%
第7回 6/1,2	金曜1限	757	141	81.4%
	金曜2限	785	126	83.9%
	土曜1限	240	40	83.3%
	土曜2限	239	31	87.0%
		2021	338	83.3%
第10回 6/22,23	金曜1限	757	188	75.2%
	金曜2限	785	153	80.5%
	土曜1限	240	35	85.4%
	土曜2限	239	43	82.0%
		2021	419	79.3%
第13回 7/13,14	金曜1限	757	148	80.4%
	金曜2限	785	160	79.6%
	土曜1限	240	41	82.9%
	土曜2限	239	36	84.9%
		2021	385	81.0%

		受講生	欠席人数	出席率
第2回 4/20,21	金曜1限	757	54	92.9%
	金曜2限	785	50	93.6%
	土曜1限	240	23	90.4%
	土曜2限	239	25	89.5%
		2021	152	92.5%
第5回 5/18,19	金曜1限	757	96	87.3%
	金曜2限	785	86	89.0%
	土曜1限	240	36	85.0%
	土曜2限	239	34	85.8%
		2021	252	87.5%
第8回 6/8,9	金曜1限	757	129	83.0%
	金曜2限	785	123	84.3%
	土曜1限	240	40	83.3%
	土曜2限	239	52	78.2%
		2021	344	83.0%
第11回 6/29,30	金曜1限	757	129	83.0%
	金曜2限	785	130	83.4%
	土曜1限	240	36	85.0%
	土曜2限	239	36	84.9%
		2021	331	83.6%
第14回 7/20,21	金曜1限	757	157	79.3%
	金曜2限	785	168	78.6%
	土曜1限	240	44	81.7%
	土曜2限	239	47	80.3%
		2021	416	79.4%

		受講生	欠席人数	出席率
第3回 4/27,28	金曜1限	757	93	87.7%
	金曜2限	785	73	90.7%
	土曜1限	240	29	87.9%
	土曜2限	239	26	89.1%
		2021	221	89.1%
第6回 5/25,26	金曜1限	757	97	87.2%
	金曜2限	785	108	86.2%
	土曜1限	240	28	88.3%
	土曜2限	239	30	87.4%
		2021	263	87.0%
第9回 6/15,16	金曜1限	757	136	82.0%
	金曜2限	785	135	82.8%
	土曜1限	240	44	81.7%
	土曜2限	239	51	78.7%
		2021	366	81.9%
第12回 7/6,7	金曜1限	757	137	81.9%
	金曜2限	785	126	83.9%
	土曜1限	240	41	82.9%
	土曜2限	239	49	79.5%
		2021	353	82.5%
第15回 7/27,28	金曜1限	757	135	82.2%
	金曜2限	785	108	86.2%
	土曜1限	240	31	87.1%
	土曜2限	239	33	86.2%
		2021	307	84.8%

＜図表５＞「自立と体験１」平成 24 年度　曜日別出席率　対照表

３）出席回数別

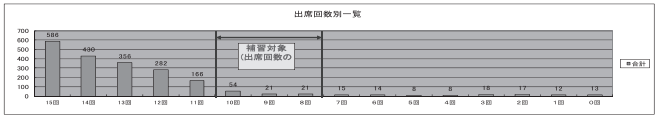
・出席回数別に学生の割合を見てみると、全出席した学生は 586 名 29.0%であった。
<図表６参照>

＊15 回から 11 回出席した学生は、1,820 名 90.1%ときわめて高い出席率を示しており、学生のこの科目への関心の高さがうかがわれる。

＊補習対象となる学生(8 回から 10 回出席)は、96 名 4.8%であった。

出席回数別一覧

曜日ごと出席回数	15回	14回	13回	12回	11回	10回	9回	8回	7回	6回	5回	4回	3回	2回	1回	0回	合計件数
金曜1限	212	166	128	110	57	20	5	11	6	9	4	3	8	10	2	6	757
金曜2限	254	164	130	106	58	17	11	6	6	4	1	4	8	4	8	4	785
土曜1限	64	61	41	32	18	8	3	4	1	1	1	1	1	1	0	3	240
土曜2限	56	39	57	34	33	9	2	0	2	0	2	0	1	3	2	0	239
合計	586	430	356	282	166	54	21	21	15	14	8	8	18	17	12	13	2021
	1820					96			105								2021
出席回数(%)	29.0%	21.3%	17.6%	14.0%	8.2%	2.7%	1.0%	1.0%	0.7%	0.7%	0.4%	0.4%	0.9%	0.8%	0.6%	0.6%	100.0%
	90.1%					4.8%			5.2%								100.0%



＜図表６＞「自立と体験１」平成 24 年度　曜日別出席率　対照表

４）学科別欠席者数

・学科別各週による欠席学生の状況は以下の図表のとおりである。<図表７参照>

＊学科別の平均欠席率では、国際コミュニケーション学科 20.5%を最高に、造形芸術学科の 9.8%が一番低い結果となった。

＊学科別欠席率の最も多かった授業回は、第 7 週から第 10 週にわたるグループ(8 学科)と、13 週と 14 週のグループ（3 学科）に分かれた。

学科／授業回	在学者数		1回目	2回目	3回目	4回目	5回目	6回目	7回目	8回目	9回目	10回目	11回目	12回目	13回目	14回目	15回目	
総合理工学科	380	欠席者数	19	26	33	36	31	41	58	51	65	79	52	62	67	63	60	
		欠席者数割合	5.0%	6.8%	8.7%	9.5%	8.2%	10.8%	15.3%	13.4%	17.1%	20.8%	13.7%	16.3%	17.6%	16.6%	15.8%	13.0%
教育学科	404	欠席者数	13	13	20	28	40	37	42	51	55	62	46	54	60	52	41	
		欠席者数割合	3.2%	3.2%	5.0%	6.9%	9.9%	9.2%	10.4%	12.6%	13.6%	15.3%	11.4%	13.4%	14.9%	12.9%	10.1%	10.1%
国際コミュニケーション学科	124	欠席者数	11	16	21	21	23	27	36	28	25	33	25	28	29	33	25	
		欠席者数割合	8.9%	12.9%	16.9%	16.9%	18.5%	21.8%	29.0%	22.6%	20.2%	26.6%	20.2%	22.6%	23.4%	26.6%	20.2%	20.5%
日本文化学科	99	欠席者数	5	8	11	11	9	13	13	11	25	12	14	16	9	19	14	
		欠席者数割合	5.1%	8.1%	11.1%	11.1%	9.1%	13.1%	13.1%	11.1%	25.3%	12.1%	14.1%	16.2%	9.1%	19.2%	14.1%	12.8%
人間社会学科	81	欠席者数	5	11	12	16	12	11	15	20	18	14	14	14	15	15	15	
		欠席者数割合	6.2%	13.6%	14.8%	19.8%	14.8%	13.6%	18.5%	24.7%	22.2%	17.3%	17.3%	17.3%	18.5%	18.5%	18.5%	17.0%
福祉実践学科	54	欠席者数	3	4	9	4	6	7	10	9	2	8	7	9	11	12	9	
		欠席者数割合	5.6%	7.4%	16.7%	7.4%	11.1%	13.0%	18.5%	16.7%	3.7%	14.8%	13.0%	16.7%	20.4%	22.2%	16.7%	13.6%
心理学科	127	欠席者数	4	7	18	7	10	13	20	21	19	26	22	21	20	28	16	
		欠席者数割合	3.1%	5.5%	14.2%	5.5%	7.9%	10.2%	15.7%	16.5%	15.0%	20.5%	17.3%	16.5%	15.7%	22.0%	12.6%	13.2%
経済学科	315	欠席者数	34	34	46	53	53	54	59	66	62	70	64	68	74	74	59	
		欠席者数割合	10.8%	10.8%	14.6%	16.8%	16.8%	17.1%	18.7%	21.0%	19.7%	22.2%	20.3%	21.6%	23.5%	23.5%	18.7%	18.4%
経営学科	211	欠席者数	20	14	30	29	33	27	42	40	48	56	39	36	54	51	34	
		欠席者数割合	9.5%	6.6%	14.2%	13.7%	15.6%	12.8%	19.9%	19.0%	22.7%	26.5%	18.5%	17.1%	25.6%	24.2%	16.1%	17.5%
情報学科	169	欠席者数	9	13	16	13	24	25	35	31	32	47	32	34	27	40	29	
		欠席者数割合	5.3%	7.7%	9.5%	7.7%	14.2%	14.8%	20.7%	18.3%	18.9%	27.8%	18.9%	20.1%	16.0%	23.7%	17.2%	16.1%
造形芸術学科	57	欠席者数	4	4	4	5	7	3	6	8	7	5	5	7	4	8	7	
		欠席者数割合	7.0%	7.0%	7.0%	8.8%	12.3%	5.3%	10.5%	14.0%	12.3%	8.8%	8.8%	12.3%	7.0%	14.0%	12.3%	9.8%

2021

＜図表７＞平成 24 年度　「自立と体験 1」学科別・回数別　欠席数一覧

Ｄ．設問「ためになった」と思う回の授業の前年度との比較検討　　担当：上原

平成 24 年度　総数１７４２	総回答数９０２７	ひとりあたりの回答数	５．２
平成 24 年度　総数１８２０	総回答数９９２１	ひとりあたりの回答率	５．５
平成 22 年度　総数１７１５	総回答数５４４７	ひとりあたりの回答数	３．２

・平成 24 年度は「ためになった」と思う回の回答率は前年度比微減ではあったが、導入初年度と比較すると 1.6 倍の支持率アップとなった。どの回もおおむね良好な結果が得られたと言える。

実施回数		第1回	第2回	第3回	第4回	第5回	第6回	第7回	第8回	第9回	第10回	第11回	第12回	第13回	第14回	第15回	総回答数	一人あたりの回答数
平成22年度	実施内容	オリエンテーション	新しい環境で他者と出会う	他者と話し合う考える	話の当事者を変える！	話の当事者を変える！	図書館にふれる	大学施設にふれる	マナーについて考える	私の通う大学を知る	自分や相手の大切さを知る！！	自分や相手の大切さを知る！！	卒業生から学ぶ	卒業後の自分をイメージ出来る	学生生活をデザインする	まとめ	5447	3.2
	人数 n=1715	370	484	714	181	153	438	386	463	233	350	313	407	369	237	339		
	回答率	21.6%	28.2%	41.6%	10.6%	8.9%	25.5%	23.1%	27.0%	13.6%	20.4%	18.2%	23.7%	21.5%	13.8%	19.8%		
	順位	第7位	第2位	第1位	第14位	第15位	第4位	第6位	第3位	第13位	第9位	第11位	第5位	第8位	第12位	第10位		
平成23年度	実施内容	オリエンテーション	新しい環境で他者と出会う	他者と話し合う考える	聞いて相手を理解する！！	聞いて相手を理解する！！	図書館にふれる	大学施設にふれる	話の当事者を知る	私の通う大学を知る	自分や相手の大切さを知る	スケールとマナーを身まえる	卒業生から学ぶ	仕事と自分について考える	学生生活をデザインする	未来の自分への メッセージ	9921	5.5
	人数 n=1820	523	674	778	793	700	621	569	389	485	808	853	638	784	689	616		
	回答率	28.7%	37.0%	42.7%	43.6%	38.5%	34.1%	31.3%	21.3%	26.6%	44.4%	47.0%	35.1%	43.1%	37.9%	33.8%		
	順位	第13位	第6位	第5位	第3位	第6位	第10位	第12位	第15位	第14位	第2位	第1位	第9位	第4位	第7位	第11位		
平成24年度	実施内容	オリエンテーション	新しい環境で他者と出会う	大学での学びを考える	聞いて相手を理解する！！	聞いて相手を理解する！！	将来大学を知る（見学施設）	将来大学を経験する	図書館にふれる（自習施設）	大学機関に触れる	自分や相手の大切さを知る	スケールとマナーを考える	卒業生から学ぶ	仕事と自分について考える	これからの大学生活を描く	未来の自分への メッセージ	9037	5.2
	人数 n=1742	498	723	462	750	663	469	247	563	494	730	663	605	760	791	617		
	回答率	28.6%	41.5%	26.5%	43.1%	38.1%	26.9%	14.2%	32.3%	28.4%	41.9%	38.2%	34.7%	43.6%	45.4%	35.4%		
	順位	第11位	第5位	第14位	第3位	第7位	第13位	第15位	第10位	第12位	第4位	第6位	第9位	第2位	第1位	第8位		

＜図表８＞

・＜図表８＞のように、平成 23 年度から授業内容の差し替えがあったため、実施回毎の単純な比較は出来ないが、第 13 回「仕事と自分について考える」第 14 回「これからの学生生活を描く」が、ためになった授業の２位、１位となったことは特筆される。
・授業の到達目標「他者との関わりを通して、自己理解を深め、明星大学で学ぶ自分自身を理解すること」が学生に浸透したことを裏書きする結果を得られたことになろう。また、前年度に引き続き第３回「聴いて相手を理解する(1)」に支持が集まったことも、「学生アンケート」の回答と合わせ、当初緊張していた学生たちが、徐々にクラスメートにとけ込めたことを示していると思われる。
・順位は低いものの、第８回「図書館にふれる」はアンケートの平成 23 年度比の支持率が最も伸びた回であり、学生のレポートでも好評であった。

２．授業運営（準備から終了まで）
２－１．授業がスタートするまで

Ａ．シラバスの修正、各回の授業内容

【現状】

・平成 23 年度の実施を終えて、同年 10 月 4 日付の中間報告において以下の改訂ポイントを報告した。
　① ポイントを絞った授業案づくり
　② タイムスケジュールの見直し
　③ 授業での学びに対する期待感を醸成するための第１回授業の工夫
　④ 学びの実感を得るためのセルフチェックや学習内容概念化のための資料の導入
　⑤ 提出も含めたポートフォリオ活用方法の見直し
　⑥ 課題の提出時期と提出回数の見直し
　⑦ ポートフォリオの記入時間を確保するための授業案見直し
　⑧ 教案のさらに分かりやすい記述検討
　⑨ 配付物の見直し（ポートフォリオ・教案への一元化の検討）
　⑩ 表記・用語の使用法の再検討

・この中間報告を受けて、具体的なシラバス改訂・各回の授業内容については、次のとおりとし、ポートフォリオ・教案の改訂を行った。
　＜図表９＞平成 24 年度シラバス・授業内容改訂案　参照

【来年度に向けての提案】

・平成 24 年度のシラバスは、全体の流れも良くなり、平成 23 年度の課題であった「内容が詰め込み過ぎで時間内に終了しない」という点をかなり改善することができた。
・来年度に向けては、シラバス全体の流れについては大きな変更は必要ないと考える。具体的な授業内容については、学生や担当教員のご意見等を参考にして改善を図りたい。

＜図表９＞平成 24 年度シラバス・授業内容改訂案

○　　人と関わる　　（以下の所要時間は目安）

回	平成 24 年度		平成 23 年度内容
	授業名	内容・＊ポイント	*■中間報告を踏まえた変更点*
1	オリエンテーション	・授業趣旨、シラバス等説明(20) ・アンケート実施（2 種類）(10) ・「自己紹介」発表リレー(30) ・この授業の学び方(10) （体験学習とは・学習スタイル） ・「学ぶ力」自己点検①(10) ・この授業の学習目標設定(10) ＊コルブの学習スタイル（サイクル）の解説をポートフォリオに掲載し、自己理解・他者理解に役立てる。	オリエンテーション ・授業の趣旨 ・自己紹介・発表リレー ・振り返り *■第１回授業に学びの要素を取り入れることにより、この授業に対する期待感を持たせる。* *■学びの実感を得るためのセルフチェックや学習内容の概念化のための資料を導入する。*

		＊この授業の学習目標を設定する際に、社会人基礎力を学生生活の場面に当てはめた「学ぶ力」自己点検を実施する。	
2	新しい環境で他者と出会う	・明星大学でやってみたいこと(10) ・一問一答インタビュー(20) ・模造紙作成(30)⇒発表(15) ・振り返り(10) ＊ジョハリの窓の解説をポートフォリオに掲載し、コミュニケーションを通して相互理解を深められることを理解する。 ＊模造紙作成の初回なので、ある程度作成方法を指定（フォーマット化）して、スムーズに全員で模造紙を作成できるようにしておく。	新しい環境で他者と出会う （明星大学でやってみたいこと） ・大学・大学生について考える ・一問一答インタビュー ・振り返り *■一問一答インタビューのみで終えてしまうことで授業の目的が単なる友達作りと捉えられる傾向があるため模造紙の作成を入れる。「大学・大学生について考える」は第３回に移す。* *■学習内容の概念化。*
3	大学での学びを考える 授業名の変更	・第２回の模造紙発表（前回続き）(15) ・大学・大学生について考える(20) ・模擬講義、ノートを取る(20) ・よいノートのポイント３(20) （ﾎﾟｽﾄｲｯﾄによるﾌﾞﾚｽﾄと整理） ・情報整理技法(10) （発散と収束、ＫＪ法等） ・ポートフォリオ提出 ＊ノートテイクについての説明を掲載する。 ＊模擬授業をノートテイクさせるので、この回でポートフォリオを提出させ記入の習慣づけを図る。 ＊情報整理技法の解説をポートフォリオに掲載する。また参考図書（「知的生産の技術」等）を紹介する。	他者と接し交流する （大学の印象・感想） ・発表リレー⇒模造紙作成⇒発表 ・振り返り *■第２回と第３回で重複感があったため、第２回明星大学でやりたいこと、第３回大学の学びを考える（ノートテイク）に分け、ポイントを絞って内容を整理する。* *■ポートフォリオを活用方法の見直し⇒提出させる。* *■学習内容の概念化。*
4	聴いて相手を理解する（1）	・ポートフォリオ返却(10) （コメント欄は設けない） ・聴くを理解する(15) （ポストイットでの整理） ・相手を理解する質問(15) （OPEN 質問・CLOSED 質問） ・他者紹介(40) ・振り返り(10) ＊OPEN 質問・CLOSED 質問についての解説をポートフォリオに掲載し、他者紹介での実践につなげる。	聴いて相手を理解する（１） ・聴くを理解する（ポストイット） ・聴くを体験する ①他己紹介 ②模擬講義ノートテイク ・振り返り *■内容が盛りだくさんだったため、ノートテイクを第３回に移して授業のポイントを「聴く」に絞って整理する。*
5	聴いて相手を理解する(2)	・話し合って意見をまとめる(70) 話し合い⇒模造紙作成⇒発表 ・「学ぶ力」自己点検②(10) ・課題の説明と作成のポイント(10) 「第１回～第５回を終えて」 （第６回授業で提出） ＊初めての課題提出の為、課題作成のポイントについての説明を入れる。	聴いて相手を理解する（２） ・相手を理解する質問 ・話し合って意見をまとめる ・１～5 回のまとめ *■相手を理解する質問は第４回に移し、他者紹介と関連付けてつなげる。第５回は話し合いに時間が取れるようにする。*

○　　人と関わる・学びのスタートを切る

回	平成 24 年度		平成 23 年度内容
	授業名	内容・＊ポイント	*■中間報告を踏まえた変更点*
6	明星大学を知る （合同授業） 授業名の変更 ※6 回 7 回は連続して実施	・出席確認後移動（15） ・ＤＶＤ視聴(15) ・学長講話(20) ・次週の模造紙作成について説明(10) ・学生ＤＶＤ(15)ゲストスピーチ(15) ＊各クラス（グループ）に、様々な学部学科の学生がいることを実感するため「私の学科自慢」を宿題とし、自分の学科について調べてくる。	課外活動を知る（合同授業） ・進め方説明⇒移動 ・課外活動について聴く ①ＤＶＤ視聴 ②学生ゲストスピーチ ・教室に移動⇒振り返り *■大教室での授業を１回にまとめて教室に戻る移動をなくす。*
7	大学について知る内容を先に実施するため、６・７回に持ってくる 明星大学を紹介する 授業名の変更	・進め方説明(10) ・「私の学科自慢」グループ内共有(10) ・模造紙作成(30) 前週のノートの内容と宿題「私の学科自慢」を用いて「高校生に明星大学を紹介する模造紙」を作成する。 ・発表⇒クラス代表選定(20) クラス代表の模造紙を選定する。 ・振り返り(10) ＊クラス代表の模造紙は、自立と体験１の広報やオープンキャンパスなどの場で活用する。	私の通う大学を知る(合同授業) ・進め方説明 ・学長講話 ①ＤＶＤ視聴 ②学長講話 ・教室に移動⇒Ａ３シート作成 *■話を聴いた後のグループワークが短時間のため中途半端になることを防ぐために、２回分まとめることで模造紙作成の時間を確保し、また聴いて終わりにならないようにする。*
8	図書館にふれる	・進め方説明(10)⇒移動(10) ・図書館演習(45) ・教室に移動(5)⇒振り返り(20) ＊平成 23 年度と同様。	図書館にふれる ・進め方説明⇒移動 ・図書館演習 ・教室に移動⇒振り返り

9	大学職員に取材する 授業名の変更	・進め方説明(10) ・取材計画の話し合い(10) ・大学職員取材（移動含む）(30) ・取材内容整理（Ａ３用紙）(15) ・Ａ３用紙を共有または発表(15) ・振り返り(10) ＊「身近な社会人としての職員」との交流に重点を置く。グループごとの工夫が出来るように取材に行く前にグループごとに計画（質問内容など）を立てさせる。取材を行った感想も書かせる。	大学の施設にふれる ・進め方説明 ・施設インタビュー ・模造紙作成 ・振り返り *■自主的に質問内容を考えてインタビューする時間確保のため、グループごとのまとめはＡ３シートとし、提出させる。*
10	自分や相手の大切さを知る	・私にとって大切なもの(15) ・ハラスメントについて知る(55) ・振り返り(15) ＊音読の意義の説明を掲載する ＊平成 23 年度と同様。	自分や相手の大切さを知る ・私にとって大切なもの ・ハラスメントについて知る ・振り返り
11	ルールとマナーを考える	・身近なマナーについて考える(10) ・キャンパス内のマナーについて考える(25) ・社会的なルールとマナーについて考える(35) ・振り返り（今後の行動）(15) ＊平成 23 年度と同様。	ルールとマナーを考える ・身近なマナーについて考える ・キャンパス内のマナーについて考える ・社会的なルールとマナーについて考える ・振り返り（今後の行動）
11 回終了時		・課題提出（第 12 回授業で提出） 「体験レポート」	＊平成 23 年度と同様

○　　大学生活を見通す

回	平成 24 年度		平成 23 年度内容
	授業名	内容・＊ポイント	*■中間報告を踏まえた変更点*
12	卒業生から学ぶ	・12～15 回の流れについて(5) ・仕事について知る（卒業生ﾊﾟｽﾞﾙ）(30) ・卒業生から学ぶ(40) ①卒業生インタビューシート読込 ②卒業生について情報整理 （やりがい・求められる力・大学生活） ③グループ内共有 ・振り返り(10) ・自己発見レポート返却(5) ＊卒業生から学ぶの項目では、卒業生インタビューシートから自分が興味を持った人１名を選び、その人の「やりがい・求められる力・大学生活」について抜き出して整理し、グループで共有する。	卒業生から学ぶ ・12～15 回の流れについて ・仕事について知る （卒業生パズル） ・振り返り ①卒業生インタビューシート読み込み ②振り返り ・自己発見レポート返却 *■従来は卒業生インタビューシートの読み込み方の指示があいまいだったため読まない学生が見られた。第 13 回で作成していたジョブマップⅡの項目を卒業生に当てはめて整理させることで働くことについてイメージしやすくする。*
13	仕事と自分について考える	・興味関心ごとのグループ分け(15) ・自己発見ﾚﾎﾟｰﾄを読んで感じたこと(10) ・自己分析（内容検討中）(50) ・「学ぶ力」自己点検③、1～13 回振り返り(10) ・社会人基礎力(5) ＊自己発見レポートの興味関心ごとにｸﾞﾙｰﾌﾟ分けすることで、同じ興味関心を持っている同士で自分のことについて考える場を作る。 ＊自己分析は、自分のできていることを見ることで、自己肯定感を持てるきっかけを作ることを狙いとする。 ＊「学ぶ力」の３回目の自己点検を行い、「学ぶ力」と「社会人基礎力」との関連を説明する （時間の関係で 14 回でも可）	仕事と自分について考える ・仕事について考える ①興味関心でｸﾞﾙｰﾌﾟ分け ②自己発見ﾚﾎﾟｰﾄを読んで感じたこと ③ジョブマップⅡ ・自己成長チェック *■自己発見レポートを活用し、自分のことについて考えるヒントとする。（自己発見レポートを答として理解しないように）また、第 14 回で自分の計画を立てるための材料を考える。* *■第三節では自分の大学生活について考えることにﾎﾟｲﾝﾄを絞り、職業理解については第 12 回「卒業生から学ぶ」のみとする。*
14	これからの大学生活を描く 授業名の変更	・大学生活４年間を考える(40) （大学生活デザインシート） ・大学生活の目標を立てる(30) （明日からの行動） ・宿題「10 年後の自分への手紙」説明(10) ・予備時間(10) ＊大学生活の目標を立てる項目では、計画を立てて行動することとともに、Planed Happenstance 理論を用いて「まず行動してみることの大切さ」の解説をポートフォリオに掲載する。	大学生活をデザインする ・課題提出 ・大学生活４年間のﾃﾞｻﾞｲﾝ ①大学生活ﾃﾞｻﾞｲﾝｼｰﾄ ②社会人基礎力 ・大学生活の目標を立てる ・「１０年後の自分への手紙」説明 *■大学生活の目標が具体的に思いつかない学生が何も書けない状況があったため、目標が見つからないならまず行動してみるという考え方を伝え、明日からの行動を考える内容を入れる。*
15	未来の自分へのメッセージ	・「10 年後の自分への手紙」回収(10) ・私の大学生活宣言(60) ・授業アンケート(20)	未来の自分へのメッセージ ・私の大学生活宣言 ・「10 年後の自分への手紙」回収

		＊「私の大学生活宣言」を授業の総まとめとして最後に実施するため、手紙の回収といった事務的な事を前に持ってくる。 ＊「10 年後の自分への手紙」は単位修得条件にしない。提出のあった学生のみ 10 年後に郵送する。 ＊10 年後の自分に手紙を書くことの意味（将来のなりたい像を見通して今の行動を考える、10 年後に改めて自分の目標を再認識する等）をポートフォリオに掲載し提出を促す。	・授業アンケート *■「10 年後の自分への手紙」を単位修得条件としたが、実際は補習対象者選定期限まで時間が取れず、成績評価に反映しないよう担当教員にお願いした。単位修得条件にしない場合提出しない学生が出る可能性はあるが、手紙を書くことの意味を説明した上で、自己判断に任せることとする。*
第 3 節中 （12 回 or13 回）	・ポートフォリオを提出する。 ＊提出のタイミングは 12 回または 13 回とし、各担当教員から指示する。14 回は「10 年後の自分への手紙」の宿題がありポートフォリオを振り返る必要があるため避ける。		

・用語集：ポートフォリオ巻末に、授業内に使われる用語（グループ学習・ポートフォリオ等）の意味を「用語集」として掲載し、この授業での使用法を限定しておく。

B．教案・ポートフォリオの改訂

【現状】

１）教案の改訂

・平成 24 年度シラバス・授業内容改訂案をもとに、教案の改訂を行った。
・具体的な改訂点は、以下の通り。
　＊表紙裏に、担当教員への教案活用のための案内文を掲載した。
　＊「体系的キャリア教育プログラム」説明ページを加えた。
　＊教員向け「学生に習得してほしいこと」を各回に入れ、教員が授業の目的を理解しやすくした。
　＊全体の記述内容を見直し、整理した。

２）ポートフォリオの改訂

・平成 24 年度シラバス・授業内容改訂案をもとに、ポートフォリオの改訂を行った。
・具体的な改訂点は、以下の通り。
　＊各回に「ねらい」を入れ、学生自身が確認できるようにした。
　＊授業内容によっては、授業の進め方についての説明文を掲載した。それにより、学生が自分自身で授業の進め方を確認できるようにした。
　＊コラム・解説ページを入れ、読んで理解する内容を増やした。
　＊記入欄のワーク指示等の説明を詳細にすることで、学生が記入しやすい工夫をした。
　＊用語の説明を入れた。
　＊巻末に参考文献を入れた。

【来年度に向けての提案】

・教案については、ほとんどの担当教員から「役に立った」「充実してきている」というご意見をいただいた。来年度に向けては、概ね平成 24 年度のとおりとし、進めにくかった点についての修正を基本としたい。
・ポートフォリオについても、基本的に大きな変更点は必要ないと思われる。記入欄の改善、授業の進め方の説明文の記載等について、学生や担当教員の意見を参考に改善を図りたい。

C．担当教員の事前研修

【現状】

・　今年度は事前の教員研修会を３回実施した。研修の対象者を平成 23 年度と変えることにより、研修が円滑に進められるようにした。実施内容と対象者は以下の通りである。＜図表 10＞

回	内容	対象
第１回	授業手法に関する研修会	初めて担当する教員（担当経験のある教員は希望者のみ）
第２回	「自立と体験１」事前説明会	担当教員全員
第３回	第三節説明会	希望者のみ（初めて担当する教員は出来る限り出席するよう依頼）

＜図表 10＞

・　各回の実施内容と参加者数は以下の通りである。＜図表 11＞

回	実施日	参加人数	内容	詳細
第1回 28 人	2012 年 1 月 27 日	7 人	授業手法に関する研修会	・グループ学習とは ・グループ学習体験 ・スキル紹介と解説 ・振り返りの体験とまとめ
	2012 年 2 月 9 日	21 人		
第2回 50 人	2012 年 2 月 9 日	33 人	「自立と体験１」事前説明会	・佐久間副学長挨拶 ・建学の精神・明星大学の教育目標 ・「自立と体験１」概要（シラバス・到達目標・教員の役割等） ・授業内容（教案・ポートフォリオ） ・明星教育センターのサポート体制 ・ＴＡ／ＳＡの役割 ・気になる学生対応 ・グループ学習形式で理解を深める
	2012 年 3 月 22 日	16 人		
	2012 年 4 月 12 日（欠席者対応）	1 人		

第3回 25 人	2012 年 6 月 28 日	25 人	第三節説明会	・自己発見レポートの説明 ・第三節の進め方について

＜図表 11＞

・**担当教員への伝達事項として、**授業運営は担当教員がＴＡ/ＳＡを頼らずに行うこと、またＴＡ/ＳＡはあくまでも教員の手伝いをする存在であることを伝えた。

【平成 23 年度の改善点について】

・平成 23 年度は研修を 3 回実施したが、すべて全員参加としたため「不要である」「書類で連絡してほしい」という担当教員からの意見があった。
・今年度は、第 3 回研修の対象を希望者としたため、研修が不要であるという意見はなく好評だった。また全体の回数も、3 回は適切だという意見が多く、対象者の出席率も良かった。

【来年度に向けての提案】

第 1 回研修の実施時期が早い、または第 3 回研修が学期中で担当教員の業務が多忙なため、3 月末～4 月初の実施を希望する声があった。来年度の実施時期を検討する際の参考としたい。

２－２．授業スタート後

Ａ．連続欠席学生への学生指導

【現状と来年度に向けての提案】

今年度も 2 回連続欠席の学生に対し、明星教育センター教員により学生の状況把握と出席を促す連絡を、電話を主たる通信手段として行った。「キャンパススクエア」上への学生連絡先のアップを待って、大型連休後の第 4 週以降より行った。2 回連続欠席学生の人数は下記表のとおりである。＜図表 12＞参照

回数	第 4 回	第 5 回	第 6 回	第 7 回	第 8 回	第 9 回	第 10 回	第 11 回	第 12 回	第 13 回	第 14 回
人数	60	89	85	96	99	136	129	141	166	161	167

＜図表 12＞

＊明星教育センター教員は学生と直接話ができるよう、学生の履修状況を確認し、学生が学内にいる空き時間に電話連絡を試みた。
＊直接学生と連絡できない際は、夕刻より家庭への連絡で対応を図った。
＊学生からは，「風邪を引いた」「寝坊した」「今週は必ず出ます」等の返事が返ってきた。
＊中には、「退学を考えている」「休学したい」などもあった。相談の有無を確認する

と「まだ親にも相談していません」「学生サポートセンターで相談しています」の返事があった。
＊平成 24 年度は他の部署、特に学生サポートセンターとの連携が昨年よりも深く、学生サポートセンターの丁寧な学生とのやり取りが学生との電話連絡から理解できた。中には「サポートセンターの○○さんと相談しています」との返事もあり、学生サポートセンターの担当者とのやり取りを確認し、電話連絡も慎重に行った。
＊学生への大学挙げての相談体制は、確立されつつあるようだ。
＊今後も 1 年目からの躓きがないように、大学としての対応を更に構築していく必要があろう。

Ｂ．ランチミーティング

【現状】

1）金曜日定例ランチミーティング

①目的
・実施した授業内容を報告しあい、お互いに共有する。
・問題点を出し合い、考察し、解決策を検討する。
・特任・常勤教員から専任教員へのアドバイス。
・次回の授業の情報提供。

②参加者
・専任教員：2～5 名
・特任・常勤教員：5 名
・兼任教員 2 名
・初年次教育委員会委員長（副学長）
・明星教育センター：センター長、副センター長
・明星教育センター職員：1～2 名

③内容
・当日の授業の様子、授業の進め方の問題点やうまくいった点、学生の様子などを報告し合い共有した。
・授業の進め方などの問題を出し合い、解決策を探った。
・内容によっては、次年度の課題にした。

2）土曜日特別ランチミーティング実施

①実施経緯
平成 23 年度に金曜日以外にランチミーティングを開いて欲しいという意見があり実施。本年度も引き続き実施した。
・実施日：7 月 7 日（土曜日）

②参加者
・専任教員：4 名
・特任・常勤教員：4 名
・明星教育センター：副センター長
・明星教育センター職員：1 名

③内容；
通常のランチミーティングと同様、当日の授業について参加の教員からコメントを発表した。通常の金曜日ランチミーティングに出てこられない教員から活発に意見が出てきた。（ニュースレターvol.12 参照）

【来年度への課題】
・専任教員の参加が少ない。これは平成 22 年度以来の課題であるが平成 24 年度も改善できていない。

C．ニュースレター

【現状】
1）目的及び内容
・ランチミーティングに出席できない教員との情報交換の場
・ランチミーティングの報告
・明星教育センターからのインフォメーションツール
・次回授業への提言、アイディア、アドバイス等の伝達
・その他情報提供、ご案内等

2）発行
・授業のあった翌週火曜日にメールにて送信した。授業前の 0 号を含め、16 回発行した。
・特任教員・常勤教員が編集会議で内容を検討し、事務担当者が書記および内容の原案を作成するという形をとった。
・特任・常勤教員全員のチェックの後、明星教育センター事務局より全担当教員宛にメールにて発送した。

3）効果
・「担当教員意見シート」によると、回答 32 名中 18 名（約 57%）の教員が「ニュースレターは役に立った」としている
・ランチミーティングの内容の記録として
・授業に関する教員への連絡事項伝達のツールの 1 つ

【来年度に向けての提案】
・ニュースレターを読んでいない教員がいるようなので、ニュースレターの存在をさらに周知する。
・周知の方法の具体例は以下のとおりである。
①第 1 回目はメールだけでなく、紙で教員に配付する。
②最初の研修の際にニュースレターのことを強調する。

D．担当教員へのフォローアップ

【現状と来年度に向けて】
1）グループリーダー制
・担当教員を 5 グループに分け、特任・常勤教員 5 名がグループリーダーとなり、平均 9 名前後の担当教員にメールなどで連絡をとり、担当教員からの相談・質問を受ける体制をとった。

①担当教員へのアプローチ方法
・常に教育センターの教員から積極的なアプローチを心がけた。
・2 月・3 月に実施した「自立と体験 1」の研修時に、担当教員はグループ別に着席し、グループリーダーの特任・常勤教員が入り、グループ内の交流をはかった。
・4 月の開講時に、各特任・常勤教員が担当教員へ挨拶のメールを出し、前期の授業実施期間中に連絡を取りやすくした。
・5 月の連休明けに、各特任・常勤教員が連続欠席者へ出席を促す電話連絡を開始したことを伝えるメールを出した。
・担当教員は「学生カルテ」を閲覧できないため、出席や課題の提出など学生への連絡を依頼された。
・成績評価の基準についての問い合わせに対して、大学で定められている出席日数の基準・授業態度・課題提出状況などを考慮して、各教員の判断に任せていることを伝えた。

②結果
・授業運営の改善が必要と思われる場合には、グループリーダーが担当教員を訪ねて授業の様子について話を聞くようにした結果、担当教員からの積極的な質問が多くなった。また合同授業の際、担当教員に授業の様子を聞くなどして担当教員との交流を深めた。
・積極的なアプローチを試みた結果、担当教員からの質問や実施報告という形で反応があった。来年度も定期的に連絡が取れるような関係作りを考えたい。

2）授業公開
・明星教育センター特任・常勤教員 5 名の授業を常時公開し、授業を担当する教員が、授業内容や進め方を参考にできるようにした。
・担当教員からも、実際の授業を見ることで参考になったという意見があった。

E．明星教育センターミーティングでの打ち合わせ

・明星教育センターミーティングは、各種委員会、所掌業務への情報共有として毎週木曜日・金曜日に実施している。「自立と体験 1」については、特に時間を割いて実施した。
＊木曜日のミーティングの内容は、翌日以降の準備、注意点の確認と徹底である。流れを確認し、学生・教員に混乱がないかを検討し、必要とあれば実施上の注意点等を書き出し、教員への連絡・TA/SA への徹底を図った。
＊金曜日は、ランチミィーティングで出た内容の検討、ニュースレター内容の確認を行った。

Ｆ．関連教材の作成

【現状と来年度に向けて】

・平成 24 年度、授業開始後に作成した関連教材は、以下のとおりであった。

１）図書館クイズ・ブックフェッチ

・設問については、昨年同様とした。
・解答例について、「事典・辞典」で検索するものが多いのではという意見があったため、修正を加えた。
・演習の難易度については、昨年に続き「難しい」という意見や時間が足りないという意見が出ているが、演習の目的には「グループで課題に取り組み、協力して解答する」という点もあるため、必ずしも正解にたどり着かなくても問題ないと思われる。

２）「私の通う大学を知る」ＤＶＤ

・平成 24 年度版として、修正が必要な部分を微調整した。

３）「課外活動を知る」ＤＶＤ

・明星教育センターの勤労奨学生がチームをつくり、対象団体の選択から取材、編集まで担当し、平成 24 年度版として新たに作成した。昨年同様、「学生の声を学生自身が届ける」という内容は好評だった。
・映像の完成度については、来年度に向けて改善が必要と考える。具体的には、撮影時の背景設定、照明、インタビュー技術、編集時の効果音、文字等の挿入についてのさらなる工夫が必要だろう。

４）卒業生パズル・卒業生インタビューシート

・卒業生パズルは、内容は変更せずに平成 23 年度と同様のものを使用した。
・卒業生インタビューシートは、平成 23 年度は学部・年齢に偏りがあり自分が興味のある卒業生がいないという声もあったため、新たに卒業生からデータを集め、入れ替えを行った。その結果、学部・年齢のバランスが良くなり、より１年生に興味を持たせることができたと考えている。
・来年度に向けて、卒業生インタビューシートはそのまま活用できると考える。
・卒業生パズルについては、正解に到達せず物足りないといった意見があった。パズルにすることで卒業生の情報を丁寧に読むことに意味があると考えているが、ワーク指示を工夫するなど、さらなる検討を加えたい。

２－３．授業終了後

Ａ．「補習」授業の実施

【現状】　９月、10 月実施予定　　参加申込者　73 名
補習対象者　89 名　（9 月 8 日確定）　平成 23 年度 130 名

１）目的

・「自立と体験１」は初年次教育の中核であり、１年次における履修を前提とする授業である。したがって、昨年同様、できるだけ多くの学生の一年次での単位取得を可能とするための方策として「補習」を実施することとなった。

２）内容とスケジュール

・補習は、質量ともに全 15 回の通常授業よりも単位修得が容易にならない内容を期して編成した。

	木	土	テーマ
第１週	9/20　6 限①	9/22　3 限② 4 限③	人間関係と コミュニケーション
第２週	9/27　6 限④	9/29　3 限⑤ 4 限⑥	チームで活動する
第３週	10/4　6 限⑦	10/6　3 限⑧ 4 限⑨	自分について考える

＜図表 13＞

＊学生が受講スケジュールを確保しやすいよう、実施時期を昨年までの８月上旬から、９月～10 月に変更した。
＊後期の初めに日程を設定することで他の後期授業の出席を促す効果も期待している。

３）補習対象者

・「自立と体験１」の単位取得は、各教員の判断に委ねられるが、原則として、「学則」に則り、最低 11 回の出席が義務づけられており、「自立と体験１」の場合は、これに課題提出４点を必須とする旨をポートフォリオに提示し、教員、学生共に周知させた。そこで、補習受講に際しては、一定の出席率を条件とした。すなわち、

Ａ．15 回の授業のうち欠席回数 5～7 回の学生。
Ｂ．授業終了後までに、未提出物の課題がある学生。
Ｃ．出席日数、課題提出は満たしていても、授業への参加態度に問題のある学生。

が補習受講の対象となる。しかし、単位認定に関しては、前述のように担当教員の判断によるため、上記要件に該当する学生で、各担当教員の指名した学生を補習対象とした。また、欠席回数８回以上、課題未提出の場合でも、配慮事由等があり担当教員が認めた学生も補習対象者とした。

４）学生への告知

・補習参加が認められた学生には、①携帯サイト「キャンパス情報システム（学生手帳 p. 3 参照）」で知らせる。②本人宛にハガキ郵送。学生は参加の意思を明星教育センターに申し出ることで補習出席が可能となる。

３．学生支援の体制

Ａ．「気になる学生」対応

「気になる学生」とは、学習を進めるにあたって、特別な配慮を必要とする可能性がある学生である。①事前に本人・保護者等から何らかの支援や配慮を要する学生として学生サポートセンターに届け出がある場合および、②担当する教員が、授業内での学生の様子をみて、「少し気になる」といった場合の２通りの方法で、学生の情報を明星教育センターにて集約させ、学生対応の体制を図っていくことができた。

【現状】

１）気になる学生

・授業開始前に、学生サポートセンターから上記①の「何らかの支援を要する学生」の情報を共有することにより、事前に状況が把握でき、担当教員への連絡がスムーズとなった。

・また、授業開始後は、上記②のように担当教員からも「少し気になる」として、授業中の様子などから相談を受ける学生もいた。状況に応じて、学生との面談が必要と判断された場合には、講義終了時間後などに、明星教育センターおよび各研究室に呼び出し、話を聴くことなどの対応も行った。

２）情報の累積

・明星教育センターで学生サポートセンターに確認したのち、何らかの対応した場合は、対応履歴として学生カルテに記入し、情報を蓄積させていった。

３）担当教員および他部署との双方向連携

・電話連絡や、ランチミーティング等で、担当教員から相談のあった、「気になる学生」については、学科教員、学生サポートセンター、学部支援室等と連携しつつ、情報収集を行った。その情報をもとに、明星教育センター内で対応を検討し、担当教員や他部署との双方向で学生をサポートできる体制を整えていくことを行った。

【来年度に向けての提案】

・平成 24 年度は気になる学生として対応を行った学生は非常に少なかった。また、事前に学生サポートセンターから、情報が入っていた学生も問題なく授業に溶け込めていたケースも多かった。これまでの経験を活かし、来年度に向けてさらなる情報の収集と連絡方法、対応の研究によって、効果の拡大をはかる必要があろう。

４．代講教員対応

Ａ．休講なしの授業

１）基本的な考え方

・担当教員から欠勤の届け出があった場合、原則休講ではなく代講対応とする。

２）代講教員

・学科内で代講教員を出すことを原則とする。

・代講可能教員について、平成 24 年度は特任・常勤教員の担当授業数を減らして、授業の参観および代講可能教員として待機、対応することとなった。

・金曜日１および２時限は４名、土曜日１時限目２名、土曜日２時限目１名。

３）代講の回数と対応（＜図表１４＞ 参照）

①代講の回数：全 23 回（前年度 31 回：以下括弧内は昨年回数）

②代講理由：体調不良２（4）、学会 10（2）、出張３（国内７、海外４）、慶弔４（3）、その他６（11）

③代講形態：学科内対応 20（28）、対応可能教員対応５（3）（ただし、明星教育センター常勤教員、非常勤教員が欠勤の場合は対応可能な待機教員が対応したが、学科内として換算した）

４）補講の回数と対応（＜図表１５＞参照）

補講回数：１件（福祉実践学科）

・理　由：土曜日に学外授業を行ったため。対象学生は１０名。

・実施日：６月１日（金）

・対　応：補講対象者 10 名には、５月 19 日（土）の土曜日に「自立と体験１」担当教員から連絡文書を配布し告知を行った。
代講授業は、福祉実践学科で「自立と体験１」を担当している教員が実施した。
出席学生は８名。

５）結果

・基本方針どおり、休講することなく全授業代講および補講を実施し、代講の全体数は平成 23 年度から８件減少した。

・前日、当日の急な欠勤への対応策として、代講の出来る教員を増員した。実際には、２件急な対応が迫られたが、問題なく対応した。

・学科内対応は 90%→87%と微減している。

	日時	時限	教員名	理由	授業回数・授業内容		代講措置
1	4/28（土）	２限	金　庚芬	出張	③大学での学びを考える	通常クラス	趙海城先生代構
2	5/11（金）	１限	海部　健三	学会	④聴いて相手を理解する（1）	通常クラス	羽矢先生代構
3	5/11（金）	２限	海部　健三	学会	④聴いて相手を理解する（1）	通常クラス	鈴木先生代構
4	5/11（金）	２限	梶谷　真也	出張	④聴いて相手を理解する（1）	通常クラス	山崎昭先生代構
5	5/12（土）	１限	海部　健三	学会	④聴いて相手を理解する（1）	通常クラス	百木先生代構
6	5/12（土）	２限	海部　健三	学会	④聴いて相手を理解する（1）	通常クラス	菊地先生代構
7	5/18（金）	２限	吉冨　芳正	その他	⑤聴いて相手を理解する（2）	通常クラス	廣嶋先生代構
8	5/18（金）	１限	上原　作和	忌引	⑤聴いて相手を理解する（2）	通常クラス	羽矢先生代講
9	5/18（金）	２限	上原　作和	忌引	⑤聴いて相手を理解する（2）	通常クラス	鈴木先生代講
10	5/19（土）	１限	上原　作和	忌引	⑤聴いて相手を理解する（2）	通常クラス	百木先生代講

11	5/19（土）	２限	上原　作和	忌引	⑤聴いて相手を理解する（2）	通常クラス	菊地先生代講
12	5/25（金）	１限	竹内　康二	学会	⑪自分と相手の大切さを知る	通常クラス	黒岩先生代構
13	6/1（金）	２限	小島　賢治	その他	⑩自分と相手の大切さを知る	通常クラス	児玉誠先生代構
14	6/2（土）	１限	海部　健三	その他	⑦明星大学を紹介する	通常クラス	ｲﾝｸﾞﾙｽﾙｰﾄﾞ先生代講
15	6/2（土）	２限	海部　健三	その他	⑦明星大学を紹介する	通常クラス	菊地先生代講
16	6/8（金）	２限	寺本　高	出張	⑦明星大学を紹介する	通常クラス	兒玉公一郎先生代講
17	6/23（土）	１限	田上知之介	学会	⑩自分と相手の大切さを知る	通常クラス	土田先生代講
18	6/23（土）	２限	金　庚芬	その他	⑩自分と相手の大切さを知る	通常クラス	趙海城先生代構
19	6/29（金）	１限	ｲﾝｸﾞﾙｽﾙｰﾄﾞ	学会	⑪ルールとマナーを考える	通常クラス	百木先生代構
20	6/30（土）	１限	田上知之介	体調不良	⑪ルールとマナーを考える	通常クラス	百木先生代構
21	7/13（金）	１限	中田　勇人	その他	⑬仕事と自分について考える	通常クラス	梶谷先生代講
22	7/20（金）	１限	竹内　康二	体調不良	⑭これからの大学生活を描く	通常クラス	羽矢先生代講
23	7/20（金）	２限	梶谷　真也	学会	⑭これからの大学生活を描く	通常クラス	中田先生代講
24	7/20（金）	２限	寺本　高	学会	⑭これからの大学生活を描く	通常クラス	鈴木先生代講
25	7/27（金）	２限	倉賀野哲造	学会	⑮未来の自分へのメッセージ	通常クラス	大石先生代講

＜図表 14＞　代講対応状況一覧

	日時		受講人数	対応	学生への対応
1	6/2（土）	福祉実践学科	10 名	6/1（金）４時限目に福祉実践学科の妹尾先生が代講授業を実施(出席者８名)	5/19（土）担当教員から当該学生 10 名へ連絡文書配付

＜図表 15＞　土曜日に授業を行う学科対応について（１学科）

５．ＴＡ/ＳＡの活用

【現状】

・授業開始３年目になる平成24年度は、さらにＴＡ/ＳＡの活用がスムーズに進められた。ＴＡ/ＳＡの仕事が２年目、３年目になり仕事に慣れている学生が多くなったこと、「自立と体験１」の授業を１年次で受講している学生が多くなったため、授業内容や進め方を理解していたことが大きな理由だったと思われる。進んでＴＡ／ＳＡを経験したいという意欲的な学生が見られた。

・平成 24 年度はＴＡ/ＳＡの配置を変えず、１人に原則１クラスを担当させ、継続して同じ教員のサポートができるように設定した。平成 23 年度は、ＴＡ／ＳＡの欠勤の際の対応として配置を調整し、専任教員のクラスには必ずＴＡ／ＳＡがつくようにしていたが、そのことにより却って「自分の担当クラス・担当の先生」という意識を薄くしていた一面があった。そのため、今年は原則 15 回の授業を継続して担当することを基本とし、担当教員と TA/SA との信頼関係をしっかり築かせ、連絡を緊密にとり、ＴＡ／ＳＡの自覚を促しながら、「自立と体験１」でのＴＡ／ＳＡの役割も認識させるなどを行った。

１）ＴＡ/ＳＡの人数

ＴＡ/ＳＡ：28 名　　勤労奨学生：23 名　　<u>合計 51 名</u>

学年	ＴＡ/ＳＡ	勤労奨学生
研究生	２名	０名
大学院生	１名	０名
４年生	０名	３名
３年生	１３名	９名
２年生	１２名	１１名

＜図表 16＞　ＴＡ／ＳＡの人数

２）ＴＡ/ＳＡの仕事内容

①授業運営上の補助
②授業サポート
③明星教育センターとの連絡

【平成 23 年度の改善点について】

・平成 23 年度は急な欠勤者が多かったが、平成 24 年度は欠勤者が少なく、また欠勤する場合でも事前の連絡がきちんと行われていた。
・１クラスを１人のＴＡ/ＳＡが担当し、勤務するクラスを固定したことは、担当教員と緊密な連絡がとれるという効果があった。
・急な欠勤に備えて、待機するＴＡ/ＳＡを置いたことで、慌てずに対処できた。
・６月頃に、基本的なＴＡ/ＳＡの仕事や役割を具体的に書いたシートを渡し、仕事を再確認させた。仕事が始まってから再認識させることは効果があった。

【ＴＡ/ＳＡ研修】

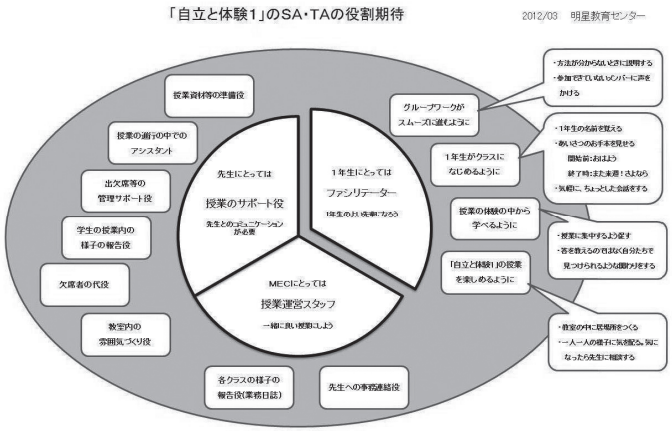
・以下の通り、ＴＡ/ＳＡ希望者を対象とした研修を実施し、全員が参加した。

①実施状況

実施日：2012 年 3 月 22 日　14 時 45 分~16 時 45 分
場所：28 号館 404 教室
参加者人数：47 名

②研修のねらい

＊ＴＡ/ＳＡの意識を変える
　→ＴＡ/ＳＡは仕事であり、自分の代わりがないという意識を持たせる。
＊具体的なＴＡ/ＳＡの役割を理解させる。（図表１７　役割期待　を配付）
＊ＴＡ／ＳＡ同士の交流を図る



＜図表 17＞　役割期待

③内容

・アイスブレーク
・グループワーク１　「こんなＴＡ／ＳＡにいてほしい」
・グループワーク２　「授業のこんなときどうする」
・事務連絡

【来年度に向けての提案】

・より良い授業運営のため、担当教員とコミュニケーションを取ることを研修時に指示しているが、来年度はさらに具体的に伝える。ＴＡ/ＳＡ経験者の中には、自分の判断で動いていた学生も見られたので、基本的に教員の手伝いをする仕事であることを伝えたい。

６．授業資料の準備

統一した「自立と体験１」の実施のために、授業運営に支障をきたさない様に、必要とする資料・物品は明星教育センター職員が準備した。実施後の教員からも、物品・資料の準備については概ね好評であった。<図表１８参照>
担当の教員、TA/SA からは以下の意見が寄せられた。
＊TA/SA でもわかりやすく、青袋に物品がまとめて用意され助かった。
＊咄嗟の時に青袋の中を確認し、対応でき役に立った。
＊ポストイットやプロッキーが役に立ち、利用頻度も高いように思う。
＊欠席した学生への対応で、クリアホルダー内に前回までの資料が綴じられており、好評であった。
＊わずかながら、授業内容の進展による物品の不足があった。
＊ポートフォリオに参考資料等を組み込んだことにより、配布資料の徹底と軽減が図れた。

回	授業内容	必要資材
1	オリエンテーション	ポートフォリオ
		「自立と体験１」アンケート①
		名札用紙
		ペン
2	新しい環境で他者と出会う	ポートフォリオ（前回欠席者分）
		模造紙
		ペン
3	大学での学びを考える	ポストイット
		A3用紙（白紙）
		ペン
		資料「ノートの取り方の基本」
		ポートフォリオ持ち帰り用袋
4	聴いて相手を理解する(1)	ポートフォリオ（返却）
		ポストイット
		A3用紙（白紙）
		ペン
5	聴いて相手を理解する(2)	模造紙
		A3用紙（白紙）
		ポストイット
		ペン
		課題提出用シート（第6回提出）
6―11	明星大学を知る	資料：課外活動DVD一覧
		資料：ゲストスピーカー一覧
	明星大学を紹介する	模造紙
		ペン
	図書館にふれる	グループ課題シート
		解答シート
	大学職員に取材する	取材報告書
		A3用紙（白紙）
		ペン
		学内地図
	自分や相手の大切さを知る	リーフレット「ハラスメントのないキャンパスに」
		ハラスメントクイズ（平成23年度のものを使用）
	ルールとマナーを考える	ポストイット
		グループシート
		ペン
		A3用紙（白紙）
		設問シート
		参考資料
10	授業内容にかかわらず	課題提出用シート（第11回提出）
12	卒業生から学ぶ	卒業生パズル
		卒業生パズル正解シート
		卒業生インタビューシート
		自己発見レポート（個人返却用）
13	仕事と自分について考える	自己発見レポート（学生持参）
		自己発見レポート（前回欠席者分）
		ポートフォリオ持ち帰り用袋
14	これからの大学生活を描く	大学生活デザインシート
		資料：「10年後の自分への手紙」について（説明シート）
		課題提出用シート（10年後の自分への手紙）
15	未来の自分へのメッセージ	A3用紙（白紙）
		ペン
		封筒
		「自立と体験１」アンケート②
		学内アンケート

〈図表 18〉

７．来年度に向けて（まとめ）

Ａ．総括

１．全体として、平成 22 年度、23 年度同様の成果を挙げることが出来た。

・ 学生アンケートの 1 回目と 15 回目の変化を尋ねた設問では、ほとんどの項目で肯定的に答える学生が増加し、大学への適応（歴史、特色、図書館を知る）、大学生活の計画策定、コミュニケーション力（話す、聴く、書く）について学習効果があった。この点については、3 年連続して同様の傾向が出ており、一定の評価が定着したと考えられる。

・学生アンケートにより「自立と体験１」の授業の特徴的な点について、すべての項目で平成 23 年度を上回った。さまざまな改善の効果が現れ、「学生にとっての役立ち感」をさらに向上させることができた。

「少人数クラス」は役に立ちましたか・・・・・・・・・・・・91.8%
「他学部・他学科の学生との交流」は役に立ちましたか・・・・93.3%
「グループでの学習活動」は役に立ちましたか・・・・・・・・91.4%
「ポートフォリオ」は役に立ちましたか・・・・・・・・・・・79.3%
課題摘出や先生からのコメントにより学びが深まりましたか・・85.1%
※いずれも「とてもそう思う」「そう思う」と答えた学生の比率

・ 昨年同様、担当教員への意見聴取、ＴＡ／ＳＡのアンケートでも、学部学科横断の授業、協同学習での授業運営について、肯定的な意見が多く見られた。

・ 67 クラス（約 30 名）全 15 回の授業を、48 名の専任教員、5 名の特任教員・常勤教員、2 名の兼任教員で担当したが、代講教員、明星教育センターの職員、ＴＡ／ＳＡの協力により、一度の休講もなくスムーズに運営することができた。

２．具体的には、次のような実施結果であった。

１）出席率

・出席率は昨年同様の水準を維持することができた。
・全 15 回平均出席率は、85.1%（23 年度 84.9%、22 年度：82.7%）と高率であった。
・出席率が最も低かったのは第 10 回の 79.3%、続いて第 14 回の 79.4%だった。23 年度の最低出席率が第 9 回の 81.1%と 80%を超えていたものと比べると、わずかながら 80%を切ってしまったのは残念であった。（22 年度最低：第 13 回 75.0%）
・一方、15 回すべての授業に出席した学生は、586 名 29.0%であった。また 11 回以上の授業に出席した学生は、1,820 名 90.1%ときわめて高い。

・節ごとの出席率を見ると、後半に向かって平均が下がった。
第一節平均　90.28%　（23 年度：88.28%、22 年度：87.88%）
第二節平均　83.02%　（23 年度：82.91%、22 年度：80.76%）
第三節平均　81.93%　（23 年度：83.55%、22 年度：79.20%）
・昨年の第三節平均が第二節より回復したのに比べると、第三節での回復が見られなか

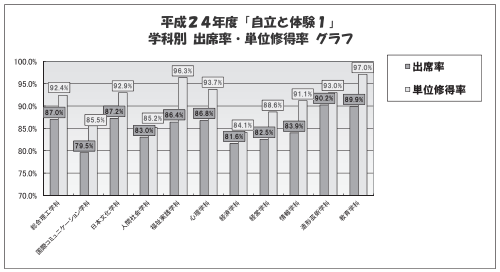
った。これは、第 14 回の出席率が低かったことが大きな原因になっている。

・第三節に向けて学生の授業に対する意欲を維持させることは継続的な課題であり、平成 24 年度の出席率の傾向については理由の検証が必要であろう。

・「ためになった」と思う回の授業を答えた学生アンケートでは、出席率が２番目に低かった第 14 回が１位、その前の回の第 13 回が２位となっている。このことから、出席している学生にとっては、第三節の授業はためになる授業だったことが分かる。来年度に向けて、さらに検討を重ねたい。

なお、学科別での出席率・単位修得率は、＜図表 19＞の通りである。

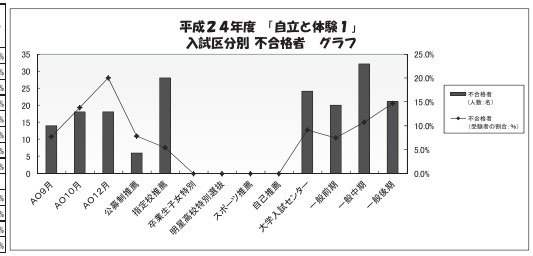
学科・学系名	在籍人数	合格者	順位	出席率	順位	単位修得率
総合理工学科	380	351	4	87.0%	6	92.4%
国際コミュニケーション学科	124	106	11	79.5%	9	85.5%
日本文化学科	99	92	3	87.2%	5	92.9%
人間社会学科	81	69	8	83.0%	10	85.2%
福祉実践学科	54	52	6	86.4%	2	96.3%
心理学科	127	119	5	86.8%	3	93.7%
経済学科	315	265	10	81.6%	11	84.1%
経営学科	211	187	9	82.5%	8	88.6%
情報学科	169	154	7	83.9%	7	91.1%
造形芸術学科	57	53	1	90.2%	4	93.0%
教育学科	404	392	2	89.9%	1	97.0%
全学部・学科合計	2021	1840		85.1%		91.0%



＜図表 19＞「自立と体験1」学科別　出席率・単位修得率

また、入試区分別の不合格者は、＜図表 20＞の通りである。

入試区分	受験者	不合格者（人数：名）	不合格者（受験者の割合：%）
AO9月	182	14	7.7%
AO10月	131	18	13.7%
AO12月	90	18	20.0%
公募制推薦	77	6	7.8%
指定校推薦	514	28	5.4%
卒業生子女特別	4	0	0.0%
明星高校特別選抜	38	0	0.0%
スポーツ推薦	4	0	0.0%
自己推薦	0	0	#DIV/0!
大学入試センター	263	24	9.1%
一般前期	271	20	7.4%
一般中期	297	32	10.8%
一般後期	143	21	14.7%



＜図表 20＞「自立と体験1」入試区分別　不合格者一覧

２）ためになった授業

・学生アンケートの「ためになった」と思う授業を尋ねる設問では、学生一人当たりの平均回答数は、5.2（23 年度 5.5）と昨年並みを維持できた。学生たちは、「平均で３分の１以上の授業がためになった」と思っていることになる。

・平成 24 年度新しく取り入れた「明星大学を紹介する」（大学紹介模造紙作成）は、回答数が最も少なく、「ためになった」と答えた学生は 247 人であった。意欲的に模造紙作成に取り組んでいる様子が見られたが、「学習の実感」がなかったということかもしれない。来年度に向けて改善していきたい。

３）シラバス・教案の改訂

・シラバス・教案をさらに改訂したことにより、平成 23 年度に引き続き高評価だった。アンケートに回答した教員 32 名のうち 23 名が、教案が役に立ったと答えている。

・担当教員より改善についてのご意見も頂いているので、参考にして改善したい。

３．平成 23 年度の報告書に挙げた改善点について、平成 24 年度の実施状況を踏まえた成果は以下のとおりである。

１）単位修得率の向上

・平成 24 年度は、単位修得率を向上させることができた。

・前期の授業での単位修得率は以下のとおりである。

	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度
単位修得者数 （前期授業のみ）	1,881 名 (2,092 名中)	1,903 名 (2,151 名中)	1,840 名 (2,021 名中)
単位修得率	89.9%	88.5%	91.04%

・また、補習での単位修得者はまだ確定していないが、補習対象者のうち補習に申し込んだ学生は 73 名、82.0%（22 年度 78%、23 年度 59%）であることから、おおよそ 60 名以上が補習により単位を修得できると考えられる。

	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度 （補習で 60 名単位修得と仮定）
単位修得者数 （補習を含む）	1,965 名 (2,092 名中)	1,967 名 (2,151 名中)	1,900 名 (2,021 名中)
単位修得率	93.9%	91.4%	94.01%

・平成 23 年度は、補習での単位修得者が 2.9%（平成 22 年度 4.0%）と低下したことから、補習の実施時期等の見直しを行った。それにより申込者数が増加したことは見直しの効果と言えるだろう。

・さらに、前期の授業での単位修得率が向上したことは注目すべき点である。単位修得率の向上に向けて実施した主な対応としては、①授業内容の改善、②欠席学生への電話連絡対象の拡大（2 回連続無断欠席⇒2 回連続欠席）が考えられる。その他、数字には表れないが、各担当教員の授業内での学生への働きかけが功を奏したと考えることもできるだろう。こういった取り組みを続けながら、単位修得率の維持に努めたい。

２）ポートフォリオの活用

・学生アンケートでは、「ポートフォリオは役に立ちましたか」という項目が、79.3%（23 年度：75.5%、22 年度：80.0%）となった。一昨年と同様レベルまで回復させることができた。回復した理由には、ポートフォリオの提出を 2 回義務づけたことが大きかったと考えられる。さらに学生の活用度、役立ち感を上げることができるよう、改善していきたい。

３）学習習慣、生活習慣の獲得

・この点については、大きな改善は見られなかった。学生アンケートの「規律（無断欠

席や遅刻をしないなど)」を守って学習活動ができますか」の設問に対しては、15 回目の肯定的回答数(「とてもそう思う」「そう思う」)が、昨年同様減少した(－15.4%)。

・この設問に「とてもそう思う」と答えている学生は 32.3%で、この数値は 15 回すべての授業に出席した学生の比率（29.0%）とほぼ一致している。このことから、欠席せずに授業に出席する必要性については、学生は把握できているとみることができる。今後は、きちんとした学習習慣、生活習慣を実行していけるような働きかけを考えていきたい。

B．来年度に向けて

・上記のように、平成 24 年度の「自立と体験１」は、「教育目標」「到達目標」「行動目標」を達成することが出来たと判断される。

・また教材（ポートフォリオ・教案）や運営等についても、3 年間の実施により、効果的な方法が定着しつつあると言えるだろう。今後は状況に合わせて随時修正していくことを考えていきたい。

・来年度に向けては、平成 24 年度の高い評価を維持すること、「さらに学生にとって有益な授業」を目指して改善を重ねることを目指していきたいと考える。

報告書制作：明星教育センター
榎本達彦、鈴木浩子、羽矢みずき、上原作和、百木英明

参考資料

明星大学　明星教育センター
平成 24 年度　全学初年次教育に関する委員会　委員名簿

構成員

選出根拠	氏　名	所　属	備考
（1）担当副学長	佐久間　美智子	造形芸術学部	
（2）副センター長	原　田　久　志	理工学部	明星教育センター副センター長
（3）担当学長補佐	菊　地　滋　夫	人文学部	
（4）学部等からの選出	原　田　久　志	理工学部	原則として「自立と体験１」担当教員
	菊　地　滋　夫	人文学部	
	中　田　勇　人	経済学部	
	渡　辺　　晶	情報学部	
	田　上　知之介	造形芸術学部	
	森　下　由規子	教育学部	
	若　木　宏　一	経営学部	
	鈴　木　時　男	全学共通教育	
（5）「自立と体験１」を担当する常勤・特任教員	羽　矢　みずき	人文学部	
	上　原　作　和		
	榎　本　達　彦		
	鈴　木　浩　子		
	山　田　智　恵※		
	百　木　英　明	教育学部	
（6）センター職員	御　厨　まり子		事務局も兼ねる
	渡　辺　貴　司		
	萩　原　陽　子		
（7）教務企画課職員	今　井　利　憲		
（8）キャリアセンター職員	山　田　　進		
（9）通信教育部職員	田　野　耕　司		

（平成 24 年 9 月 30 日現在）

※育休中のため平成 24 年度の授業は担当せず。
平成 24 年 7 月 26 日付 退職。

参考資料

明星大学明星教育センター
平成 24 年度全学初年次教育に関する委員会開催記録

第１回委員会

日　時　：　平成 24 年 7 月 5 日（木）　16：25～17：30
場　所　：　本館 4Ｆ　406 会議室
議題等
　１．明星教育センター長挨拶
　２．全学初年次教育に関する委員会委員について
　３．平成 24 年度「自立と体験１」授業（通学課程）について
　　【報告事項】
　　①実施状況について
　　（出席状況、欠席した学生フォロー状況、ランチミーティング、
　　ニュースレター、第三節説明会　等の報告含む）
　　②担当教員からの代構、補講措置依頼について
　　【審議事項】
　　①補習授業の日程（案）について
　　②アンケート実施について（教員向け、職員向け）
　　③報告書作成について
　４．平成 24 年度「自立と体験１」授業（再履修）について
　５．平成 24 年度「自立と体験１」授業（通信教育課程）について
　６．プレキャリア教育について
　７．日本語表現講座について
　８．その他

第２回委員会

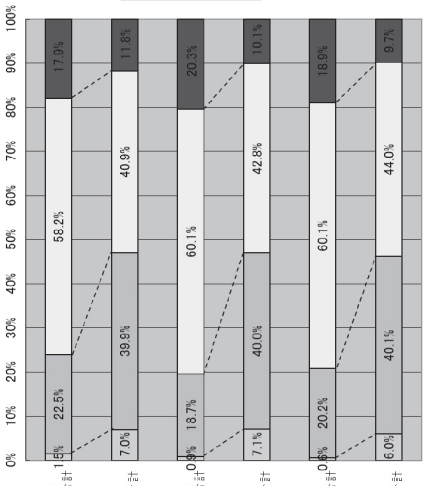
日　時　：　平成 24 年 9 月 27 日（木）　17：00～18：00
場　所　：　本館 4Ｆ　406 会議室
議題等
　１．平成２４年度「自立と体験１」授業（通学課程）について
　　【報告事項】
　　①報告書について
　　②補習授業の進捗状況について
　　【審議事項】
　　①平成 25 年度全学共通科目「自立と体験 1」担当教員数（案）について
　２．平成２４年度「自立と体験１」授業（再履修）について
　３．プレキャリア教育について
　４．日本語表現講座について
　５．その他
　　①学生生活実態調査について

（平成 24 年 9 月 30 日現在）

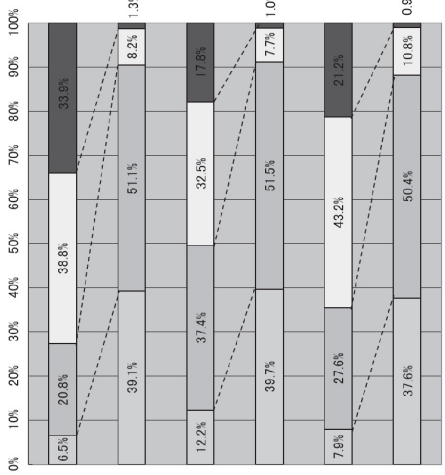
添付資料

データ資料
　１.「自立と体験 1」アンケート結果（グラフ）

明星大学の歴史や教育の特色を知っていますか？



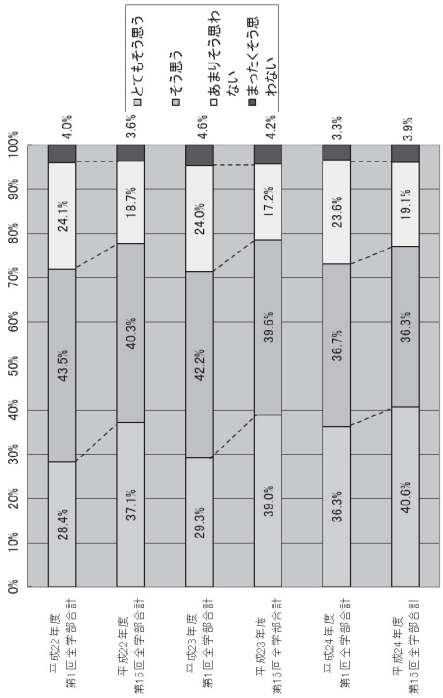
大学の図書館の利用方法を知っていますか？



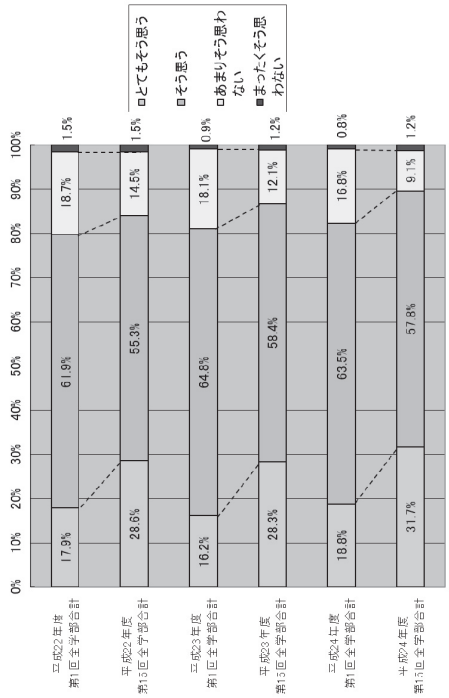
1

「自立と体験 1」授業アンケート集計グラフ（平成 22 年度、平成 23 年度、平成 24 年度）

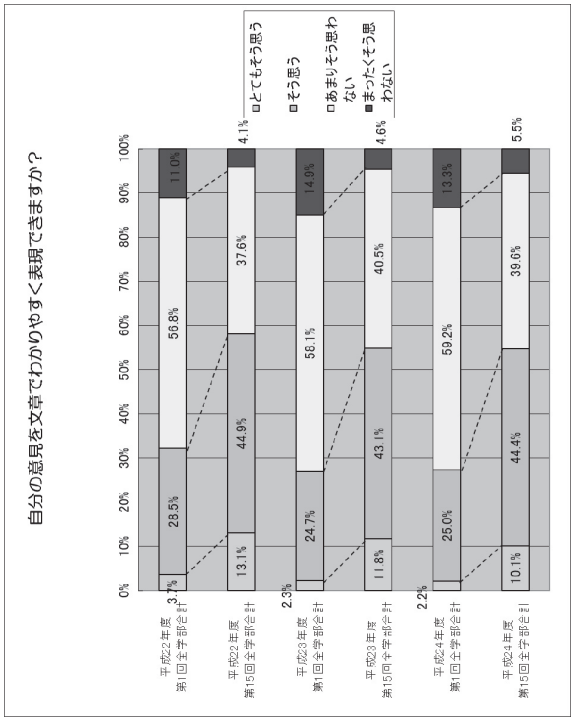
卒業後にしたいこと（進路）を考えていますか？

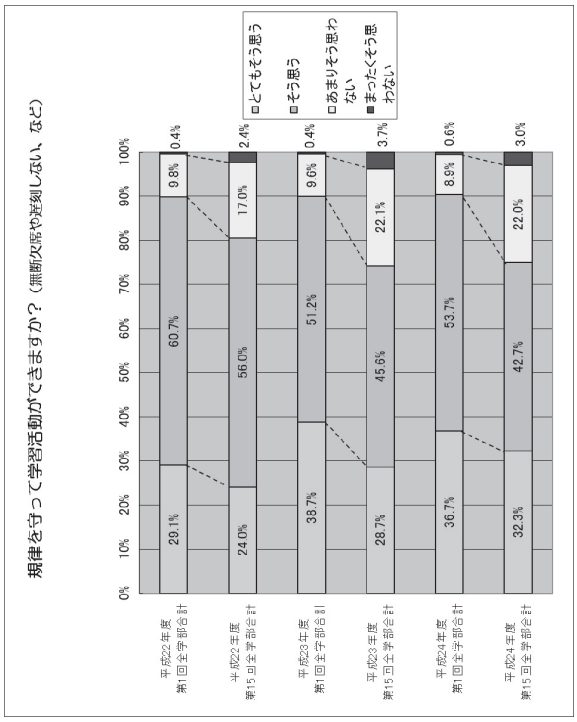


学生時代にするべきことを考えていますか？

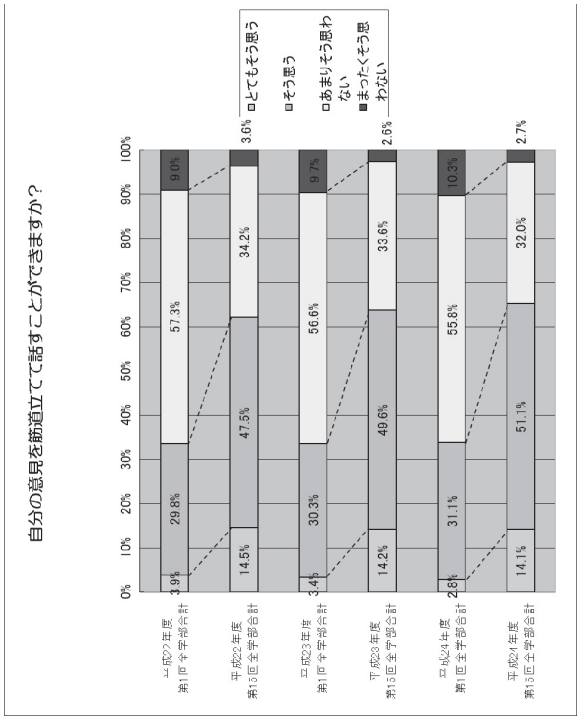


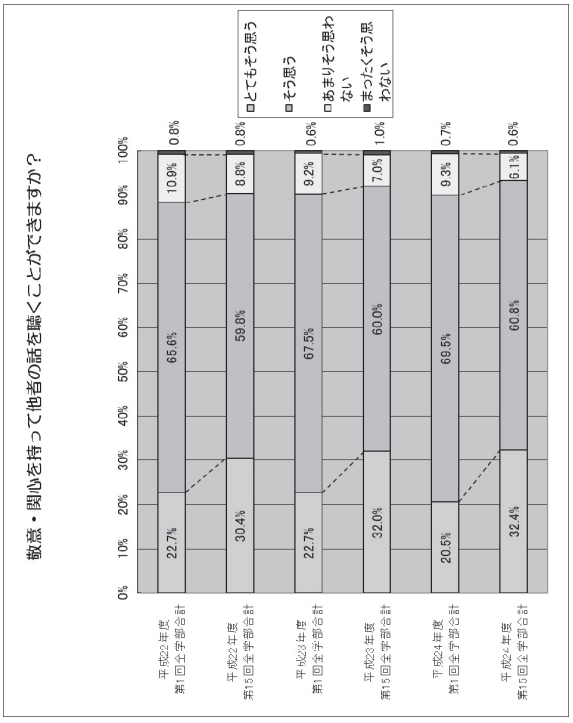
0


自分の意見を文章でわかりやすく表現できますか？
0%
10%
20%
30%
40%
50%
60%
70%
80%
90%
100%
平成22年度 第1回全学部合計
平成22年度 第15回全学部合計
平成23年度 第1回全学部合計
平成23年度 第15回全学部合計
平成24年度 第1回全学部合計
平成24年度 第15回全学部合計
3.7%
28.5%
56.8%
11.0%
13.1%
44.9%
37.6%
4.1%
2.3%
24.7%
56.1%
14.9%
11.8%
43.1%
40.5%
4.6%
2.2%
25.0%
59.2%
13.3%
10.1%
44.4%
39.6%
5.5%
とてもそう思う
そう思う
あまりそう思わない
まったくそう思わない


規律を守って学習活動ができますか？（無断欠席や遅刻しない、など）
0%
10%
20%
30%
40%
50%
60%
70%
80%
90%
100%
平成22年度 第1回全学部合計
平成22年度 第15回全学部合計
平成23年度 第1回全学部合計
平成23年度 第15回全学部合計
平成24年度 第1回全学部合計
平成24年度 第15回全学部合計
29.1%
60.7%
9.8%
0.4%
24.0%
56.0%
17.0%
2.4%
38.7%
51.2%
9.6%
0.4%
28.7%
45.6%
22.1%
3.7%
36.7%
53.7%
8.8%
0.6%
32.3%
42.7%
22.0%
3.0%
とてもそう思う
そう思う
あまりそう思わない
まったくそう思わない

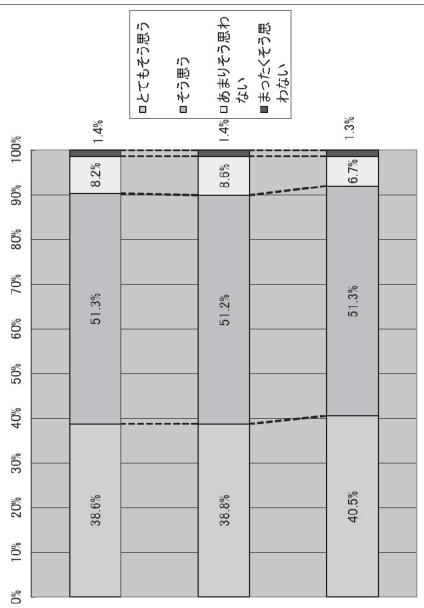
3


自分の意見を筋道立てて話すことができますか？
0%
10%
20%
30%
40%
50%
60%
70%
80%
90%
100%
平成22年度 第1回全学部合計
平成22年度 第15回全学部合計
平成23年度 第1回全学部合計
平成23年度 第15回全学部合計
平成24年度 第1回全学部合計
平成24年度 第15回全学部合計
3.9%
29.8%
57.3%
9.0%
14.5%
47.5%
34.2%
3.6%
3.4%
30.3%
56.6%
9.7%
14.2%
49.6%
33.6%
2.6%
2.6%
31.1%
55.8%
10.3%
14.1%
51.1%
32.0%
2.7%
とてもそう思う
そう思う
あまりそう思わない
まったくそう思わない


敬意・関心を持って他者の話を聞くことができますか？
0%
10%
20%
30%
40%
50%
60%
70%
80%
90%
100%
平成22年度 第1回全学部合計
平成22年度 第15回全学部合計
平成23年度 第1回全学部合計
平成23年度 第15回全学部合計
平成24年度 第1回全学部合計
平成24年度 第15回全学部合計
22.7%
65.6%
10.9%
0.8%
30.4%
59.8%
8.8%
0.8%
22.7%
67.5%
9.2%
0.6%
32.0%
60.0%
7.0%
1.0%
20.5%
69.5%
9.3%
0.7%
32.4%
60.8%
6.1%
0.6%
とてもそう思う
そう思う
あまりそう思わない
まったくそう思わない

2

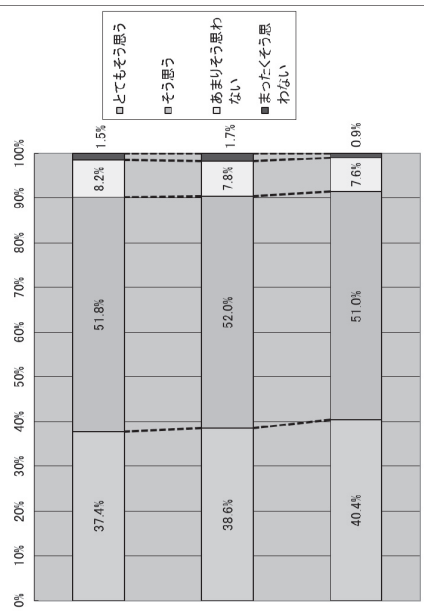
「小人数クラス」は役に立ちましたか？



「他学部・他学科の学生との交流」は役にたちましたか？

4

「グループでの学習活動」は役に立ちましたか？

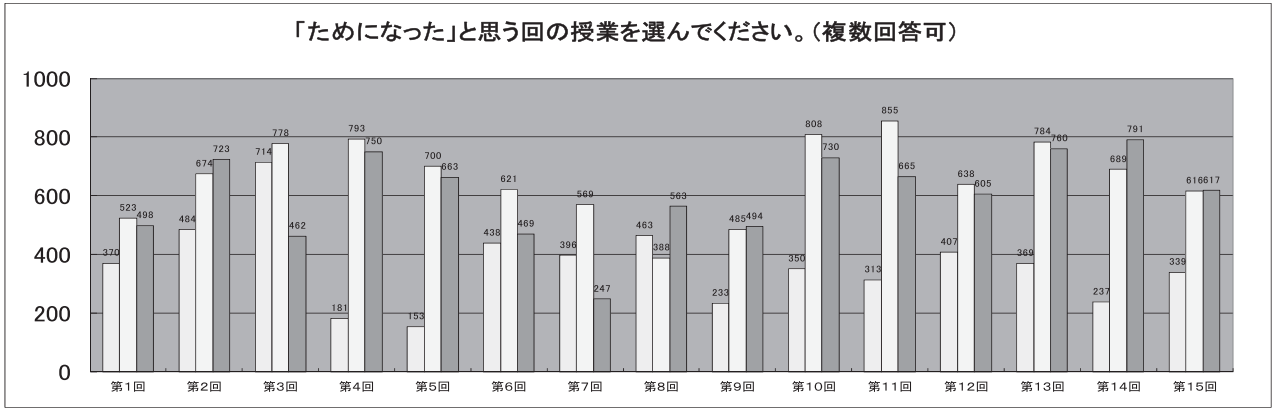
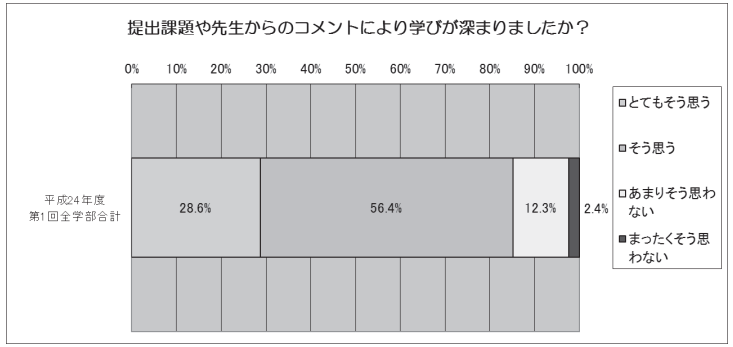


「ポートフォリオ」は役に立ちましたか？

5

「ためになった」と思う回の授業を選んでください。（複数回答可）

実施回数		第1回	第2回	第3回	第4回	第5回	第6回	第7回	第8回	第9回	第10回	第11回	第12回	第13回	第14回	第15回	総回答数	一人あたりの回答数
平成22年度	実施内容	オリエンテーション	新しい環境で他者と出会う	他者と接し交流する	課外活動を知る(1)	課外活動を知る(2)	図書館にふれる	大学施設にふれる	マナーについて考える	私の通う大学を知る	自分や相手の大切さを知る(1)	自分や相手の大切さを知る(2)	卒業生から学ぶ	卒業後の自分をイメージする	学生生活をデザインする	まとめ	5447	3.2
	人数 n=1715	370	484	714	181	153	438	396	463	233	350	313	407	369	237	339		
	回答率	21.6%	28.2%	41.6%	10.6%	8.9%	25.5%	23.1%	27.0%	13.6%	20.4%	18.3%	23.7%	21.5%	13.8%	19.8%		
	順位	第7位	第2位	第1位	第14位	第15位	第4位	第6位	第3位	第13位	第9位	第11位	第5位	第8位	第12位	第10位		
平成23年度	実施内容	オリエンテーション	新しい環境で他者と出会う	他者と接し交流する	聴いて相手を理解する(1)	聴いて相手を理解する(2)	図書館にふれる	大学施設にふれる	課外活動を知る	私の通う大学を知る	自分や相手の大切さを知る	ルールとマナーを考える	卒業生から学ぶ	仕事と自分について考える	学生生活をデザインする	未来の自分へのメッセージ	9921	5.5
	人数 n=1820	523	674	778	793	700	621	569	388	485	808	855	638	784	689	616		
	回答率	28.7%	37.0%	42.7%	43.6%	38.5%	34.1%	31.3%	21.3%	26.6%	44.4%	47.0%	35.1%	43.1%	37.9%	33.8%		
	順位	第13位	第8位	第5位	第3位	第6位	第10位	第12位	第15位	第14位	第2位	第1位	第9位	第4位	第7位	第11位		
平成24年度	実施内容	オリエンテーション	新しい環境で他者と出会う	大学での学びを考える	聴いて相手を理解する(1)	聴いて相手を理解する(2)	明星大学を知る(合同授業)	明星大学を紹介する	図書館にふれる(合同授業)	大学職員に取材する	自分と相手の大切さを知る	ルールとマナーを考える	卒業生から学ぶ	仕事と自分について考える	これからの大学生活を描く	未来の自分へのメッセージ	9037	5.2
	人数 n=1742	498	723	462	750	663	469	247	563	494	730	665	605	760	791	617		
	回答率	28.6%	41.5%	26.5%	43.1%	38.1%	26.9%	14.2%	32.3%	28.4%	41.9%	38.2%	34.7%	43.6%	45.4%	35.4%		
	順位	第11位	第5位	第14位	第3位	第7位	第13位	第15位	第10位	第12位	第4位	第6位	第9位	第2位	第1位	第8位		



平成 24（2012）年度「自立と体験 1」実施報告書